

多層構造が誘う夢の迷宮

- 最大の魅力
  - 「夢の中の夢」という重層的な構成
  - 階層ごとに時間の流れが遅くなる
  - ⇒ 夢を見ているような没入感



- ノーラン監督
  - 夢の中の「リアルな違和感」を演出
  - 映画が“夢の迷宮”として成立

心を揺さぶる心理ドラマ



主人公コブ

- 内面にある葛藤 ― 妻への罪悪感
- 夢の中で現れ、ミッションの妨げに

- 夢という舞台
  - 亡き人との再会や、記憶の再構築が可能
  - ⇒ かえってコブの心を縛ってしまう

- 物語の最後
  - “答え”が明確に描かれない
  - 異なる解釈をうながし深い余韻に

観客にも仕掛ける罠

- 観終わったあと
  - “解釈の余白” ― ノーラン作品らしさ
  - 「現実？ 夢？」と議論したくなる



編集手法

- 夢の中の時間と現実世界の時間のズレを利用
- 視覚的にも知的にも非常に刺激的

- くりかえし視聴
  - 映像の細部に隠された伏線に気づく
  - 作品の奥深さがさらに増す